

生産森林組合への活動支援について

1 はじめに

県南広域振興局では、施業の集約化を促進するため、森林所有者への森林経営計画作成の働き掛けを行っています。

特に、森林経営計画を作成するうえで、面的なまとまりを確保しやすい、大規模所有形態の生産森林組合等を主体に支援しています。

2 生産森林組合の優良事例

管内には、県内でいち早く森林経営計画作成に取り組んだ生母生産森林組合があります。組合では、25年度から搬出間伐に着手し、地元森林組合が作業の効率性を考え、列状間伐で行いました。

樹種はスギ、間伐面積は14.5haであり、B材を主体に搬出された約1,000m³の材を宮城県の合板工場に搬送し、620万円（補助金含み）の収益となりました。



【プロセッサによる造材作業】

3 県南広域振興局の支援について

生母生産森林組合の先行事例が刺激となり、近接所有する2つの生産森林組合が森林経営計画に取り組むなど地域にも変化が生じています。

県南局においては、この先行の取組みが

他の組合に波及するよう出前相談会や通信誌の発行などを行っています。「出前相談会」とは、地域の関係者が都合のいい時間に、林業普及指導員が出向くもので、25年度は5回行い、組合運営の課題等について意見交換を行いました。



【出前相談会】

4 出前相談会の成果

出前相談会での具体的な成果としては、①休眠状態であった組合に対しての広葉樹資源を活用した更新伐の提案、②里山整備を目指す組合に対しての事業計画の提案などがあります。

5 おわりに

去る3月26日に「生産森林組合意見交換会」を開催し、組合の運営課題等について意見交換しました。生産森林組合では、財源の確保や組合離れ・高齢化などの課題も報告され、施業の集約化まで手が回らないなどの意見がありました。

県南局では、今後とも出前相談会等の活動を通して、組合活動が活性化されるよう支援して参ります。